

デジタルツイン など最新測量解説

日測協東北ら、空間
情報活用講演会開く

日本測量協会（日測協）空間情報総括管理技術者の有資格者で構成するスペーシャリストの会東北支部（千葉一博支部長）は17日、2024年度空間情報講演会を仙台市青葉区の宮城県建設産業会館で開いた。写真。会員企業などから約100人が参加。最新の測量や空間情報の新技術などを学んでもらった。同東北支部ジオメトリストの会と宮城県測量設計業協会（宮測



協、高橋淳一会長）が共催した。

冒頭、千葉支部長は7月に発生した秋田・山形豪雨など「自然災害が生じる度に（災害予測などを担う）空間情報技術者の社会に対する責任の重さと使命を一層強く感じる」と述べた。

「講演会で得た知識や技術を日々の業務に生かし、迅速で精度の高い空間情報を通じ、ものづくりや防災・減災に貢献していこう」と呼び掛けた。

続いて、芝浦工業大学工学部の中川雅史教授が「都市のデジタルツインに対応する測量のデザイン」と題して基調講演。人手不足の状況下での技術者育成など、技術と人材の話を織り交ぜ解説した。特別講演では東北地方整備局企画部の佐藤彰技術調整管理官が7月25日からの大雨による出水への対応、安全・安心な東北への取り組み、国土強靱化に向けた公共事業費関係予算などを解説した。